

『Tsuku-場 第16回イブニング・レクチャー』アンケート集計結果

◆多くの皆様にご参加いただきありがとうございました。簡単ではありますがアンケートを以下のようにまとめました。

- ・開催日 : 2022年3月15日(火)19:00~20:30
- ・場所 : オンライン開催
- ・内容 : 働く人の心理的居場所感
~安心してイキイキ働くために~
- ・講演者 : 中村 准子 氏
筑波大学 働く人への心理支援開発研究センター 研究員 博士(生涯発達科学)

◆参加状況

申し込み 人数	参加者	アンケート 回収数
135	113	79

◆満足度について

とても高い	高い	普通	低い	とても低い	未記入	計
47	30	2	0	0	0	79

◆アンケートに書かれたコメントの中からいくつか抜粋しました。

- ・「居場所はあるときには感じない、なくなってから感じる」これは確かにそうだなと思いました。「生活の中で心理的居場所感を感じられる居場所を複数もっていること」こちらもなるほど感じましたし、逆に複数もっていてもしんどいときは相当な居場所感のなさを感じているように思いました。
- ・職場で自信を失っている人との会話に、居場所という観点を使ってみようと思いました。
- ・「心理的居場所感」という言葉を初めて聞きました。最近「心理的安全性」という言葉が流行っていますが、居場所感という考えがともしっくりきます。特に、「人との関係性の良さだけで、居場所感が高くなるとは限らない」という話はとても興味深かったです。
- ・職業生活における居場所の獲得に職場でも家庭でもない第3の居場所が効果的であるという知見がとても参考になりました。
- ・従業員のリテンションという観点からも居場所の重要性を改めて感じました。
- ・居場所感については、本人の意識だけではなく、周りの人の支援や、組織の配慮が必要であるということ。
- ・今まさに、転籍により居場所感を感じられず、悩んでいました。新しい組織との繋がりを感じることでできていません。だからこそ、これからどうしていきたいかを考えようと思えました。
- ・弊社はコロナ禍においてリモートワーク100%に近い状態なのですが、最近、専門職者の離職が止まらず、会社への帰属意識もないし成長も感じられないと言う声を聞いておりました。職場の心理的居場所感醸成が解決策の1つになると強く感じました。
- ・職場での「居場所」について、よく会話にも出てくる言葉なのでわかった気になっていましたが、研究するとすごく奥が深いということがよくわかりました。とても参考になりました。
- ・キャリアコンサルタントとしては、心理的居場所感が低下・喪失した相談者には、傾聴し内省を促すにとどまらず、自己変容・外に向けたアクションが起こせるような支援ができるといいのではと考えさせられました。
- ・コロナ禍で在宅勤務になり、大きな組織の中での自分の立ち位置がわからなくなる時があります。そんな中でひとりひとりが居場所を感じられるようなチーム作りが今まで以上に課題になると思います。特にリーダーは部員一人ひとりが自分の役割を認識し、自分の仕事が組織のために貢献できているよう感じられるような仕事の配分と声掛けが必要になると思います。一人ひとりが居場所を得られるようなチーム作り、を組織の中で意識していきたいと思っています。